



# 看護部通信

2014年 9月



去る8月は、全国各地で猛暑による熱中症、また集中豪雨による土砂災害や死者発生が繰り返し報道されました。幸いにもこれまでの所、秋田は異常気象の影響が僅かで済んでいます。しかし油断は禁物、災害は突然やってきます。少しでも冷静に行動できるよう、日頃からの備えを心しておきましょう。

リハセンの8月は、今年度の一大イベントであった「病院機能評価 3rd.vor1.0」受審の現地訪問を終えました。受審最終日まで病院全体が一丸となって改善に取り組みました。その結果はどうあれ、看護部だけではなく、職種間の連携がさらに強化されたように感じています。今後とも、より良い環境づくりを目指した取り組みを継続していきましょう。

看護管理室

## 実習生がやって来ました！

3病棟 K

秋田市内の看護学校から4名の学生が臨地実習にやって来ました。コミュニケーションの大切さ、患者さんとの関係を作る方法、自己を振り返る体験ができることが精神科ならではの学びです。

実習中は、試行錯誤しながら患者さんに寄り添い傾聴している姿をほほえましく感じました。最終日は、笑顔で拍手する方、泣いてくれる方など、患者さん達の優しさに私も感動です。あっという間の12日間でした。

先日、精神科医：西井重超<sup>にししいしげき</sup>氏の講演で現代の学生の特徴について話されていました。何でも手に入る便利な社会で、「不便への耐性がない」「我慢できない」人が増えている。

それが良いか悪いかではなく、「そういう時代である」という認識を持つことが必要。アニメに例えると、昔はアタックNo.1（根性で頑張れ）、今はプリキュア（ピンチでも助けがあり何とかなる）だそうです。何となくイメージが付きまします。



「今の時代」に合わせる気持ちで、看護学生の良き理解者になれるような指導者を目指したいです。

## 今年度の活動

3病棟 H

CVPPP トレーナー研修を受講して6年目の今年は、色々な体験をしました。

5月に花巻病院主催のフォローアップ研修に参加。インストラクターのユーモアたっぷりの指導で、参加者は一体感を持ち、とても良い雰囲気の中、2日間汗を流しました。

4月と7月は、脳研の研修に講師として参加。自分は補助的な形でしたが、他施設で研修を担当するというのは、とても良い経験になりました。

6月は、日精看の研修でCVPPPの第一人者である下里誠二先生の講義を受けました。五十肩で苦しむ先生に代わり、リハセンから参加の二人で実技指導のお手伝いをしました。やはりプロフェッショナル！と思わせる気持ちの良いテクニックでした。

いろいろ学んだことを、今後役に立てていきたいと思います。

